

論文審査の要旨

報告番号	理工研 第 174号	氏名	田邊佳紀
審査委員	主査	仲谷 英夫	
	副査	佐藤 正典	山本 啓司
<p>学位論文題目 Systematics and paleobiogeography of the Late Miocene rodents from the Nakali Formation, Northern Kenya (ケニア北部ナカリ層から産出した後期中新世齧歯類の分類学的・古生物地理学的研究)</p> <p>審査要旨</p> <p>提出された学位論文及び論文目録等を基に学位論文審査を実施した。本論文は、ケニア北部に分布するナカリ層（約1000万年前）から産出した後期中新世齧歯類化石の記載と、新第三紀のアフローユーラシア齧歯類の分布と移動についての考察をまとめたもので、全5章より構成されている。</p> <p>第1章は本研究の背景および目的について記述した。</p> <p>第2章はナカリ層の地質概略を記載した。</p> <p>第3章はナカリ層から産出した齧歯類化石後期中新世齧歯類化石を記載した。 これまで同層からは1種（タケネズミ亜科の<i>Nakalimys lavocati</i>）しか報告されていなかったが、次の6科（亜科）10種を明らかにした。 リス科の<i>Vulcanisciurus africanus</i>と、属種未定種、タケネズミ亜科の<i>Nakalimys lavocati</i>、アフロクリケトドン亜科の<i>Afrocricetodon cf. songhori korui</i>、アレチネズミ亜科の<i>Abudhabia</i>属、ヨシネズミ科の<i>Thryonomys</i>属の新種、<i>Paraulacodus johanesi</i>、属種未定種（small）、属種未定種（large）、ヤマアラシ科の属種未定種。 優占種はタケネズミ亜科で、次いでアフロクリケトドン亜科、ヨシネズミ科、リス科が多く産出し、アレチネズミ亜科とヤマアラシ科は少なく、また、多様なヨシネズミ科が産出することを明らかにした。東アフリカにおいて、同時代前後の地層から多様な齧歯類が明らかとなったのは2例目である。</p> <p>第4章は新第三紀のアフローユーラシアの齧歯類の分布と移動を考察した。 ナカリ層から産出したヨシネズミ科の<i>Thryonomys</i>属（現生属）の新種は属レベルで、アフローユーラシアを通じて最古の記録である。これは、<i>Thryonomys</i>属とその祖先種についてこれまで考えられてきた分岐年代が更新される可能性を示唆する。アレチネズミ亜科（現生亜科）の<i>Abudhabia</i>属は亜科レベルで、ヤマアラシ科（現生科）の属種未定種は科レベルで、東アフリカにおける最古の記録であることを明らかにした。これにより、少なくとも1000万年前にこれらの分類群はアフリカで出現したことやアフローユーラシア間で交流があったことが考えられるとともに、同時代から現代型への移行が始まったことを示唆する。</p> <p>第5章は本研究の成果を総括した。</p> <p>本研究の成果は、サハラ以南のアフリカ大陸の哺乳類動物相の解明とユーラシア大陸の哺乳類動物相との交流を解明する上での貢献が大きいと評価できる。よって、審査委員会は博士（理学）の学位論文として合格と判定する。</p>			